SONY

2-650-249-06(1)

ワイヤレスステレオ ヘッドホンシステム

取扱説明書

お買い上げいただき、ありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

目次

MDR-RF5000K

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

この「安全のために」の注意事項をよくお読みください。

定期的に点検する

1年に1度は、ACパワーアダプターのプラグ部とコンセントとの間にほこりがたまっていないか、故障したまま使用していないか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、ACパワーアダプターなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら



❶ **電源を切る**

❷ **ACパワーアダプターをコンセントから抜く**

❸ **お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する**

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・漏液・発熱・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・発熱・発火・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、漏液・破裂・発熱・発火・感電などによりやけどやけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



行為を禁止する記号




火災

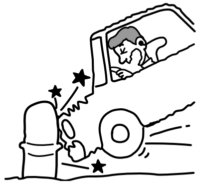
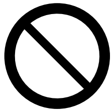
感電

警告

下記の注意を守らないと、**火災・発熱・発火・感電**により**やけど**や**大けが**の原因となります。

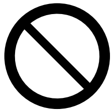
運転中は使用しない

自動車の運転をしながらヘッドホンを使用したり、細かい操作をしたりすることは絶対におやめください。交通事故の原因となります。



禁止

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに使用を中止し、ACパワーアダプターをコンセントから抜いて、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。



禁止

この製品を海外で使用しない

ACパワーアダプターは、日本国内専用です。
交流100Vの電源でお使いください。海外などで、異なる電源電圧で使用すると、火災・感電の原因となります。



雷が鳴りだしたら、充電端子や電源プラグに触れない

感電の原因となります。


接触禁止

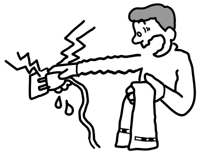

指定以外のACパワーアダプターを使わない

破裂・液漏れや、過熱などにより、火災、けがや周囲の汚損の原因となります。

⚠ **注意** 下記の注意を守らないと、**けが**をしたり周辺の**家財**に**損害**を与えたりすることがあります。

ぬれた手でACパワーアダプターをさわらない

感電の原因となることがあります。



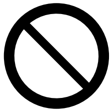


接触禁止

大音量で長時間つづけて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。





禁止

はじめからボリュームを上げすぎない

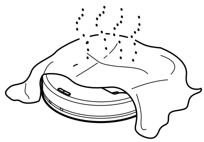
突然大きな音が出て耳をいためることがあります。ボリュームは徐々に上げましょう。
とくに、ミニディスク、CDやDATなど、雑音の少ないデジタル機器を聞くときにはご注意ください。

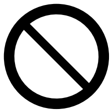
通電中のACパワーアダプターに長時間ふれない

長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

本体やACパワーアダプターを布団などでおおった状態で使わない

熱がこもってケースが変形したり、火災の原因となることがあります。

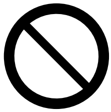




禁止

かゆみなど違和感があったら使わない

使用中、肌に合わないと感じたときは使用を中止して医師またはお買い上げ店、ソニーサービス窓口にご相談ください。



禁止

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱・発火・誤飲による**大けがや失明**を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

本機では以下の電池をお使いいただけます。電池の種類については、電池本体上の表示をご確認ください。

充電式電池

専用充電式ニッケル水素電池 BP-HP2000

乾電池*

アルカリ単3形

* マンガン乾電池では、ご使用時間が極端に短くなるため、おすすめしません。

⚠危険 充電式電池、乾電池が液漏れしたとき

充電式電池、乾電池の液が漏れたときは素手で液をさわらない

液が本体内部に残ることがあるため、ソニーの相談窓口（裏表紙）またはソニーサービス窓口にご相談ください。

液が目に入ったときは、失明の原因になることがあるので目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。

液が身体や衣服についたときも、やけどやけがの原因になるので、すぐにきれいな水で洗い流し、皮膚に炎症やけがの症状があるときには医師に相談してください。

⚠危険 充電式電池について

- 機器の表示に合わせて＋と－を正しく入れる。
- 指定された充電器以外で充電しない。
- 火の中に入れない。分解、加熱しない。
- 火のそばや直射日光のあたるところ・炎天下の車中など、高温の場所で使用・保管・放置しない。
- コイン、キー、ネックレスなどの金属類と一緒に携帯・保管しない。ショートさせない。
- 外装のビニールチューブをはがしたり傷つけたりしない。
- 液漏れした電池は使わない。
- 指定された種類以外の充電式電池は使用しない。
- 使いきった電池は取りはずす。長時間使用しないときも取りはずす。
- 種類の違う電池を混ぜて使わない。

（次のページへつづく）

⚠警告 乾電池について

- 機器の表示に合わせて＋と－を正しく入れる。
- 充電しない。
- 火の中に入れない。分解、加熱しない。
- コイン、キー、ネックレスなどの金属類と一緒に携帯・保管しない。ショートさせない。
- 液漏れした電池は使わない。
- 使いきった電池は取りはずす。長時間使用しないときも取りはずす。
- 新しい電池と使用した電池、種類の違う電池を混ぜて使わない。

⚠注意 乾電池について

- 火のそばや直射日光のあたるところ・炎天下の車中など、高温の場所で使用・保管・放置しない。
- 外装のビニールチューブをはがしたり傷つけたりしない。
- 指定された種類以外の乾電池は使用しない。

日本国内での充電式電池の廃棄について

Ni-MH

ニッケル水素電池は、リサイクルできます。不要になったニッケル水素電池は、金属部にセロハンテープなどの絶縁テープを貼って充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については一般社団法人JBRCホームページ
http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html を参照してください。

主な特長

本システムは2.4 GHz無線伝送方式（デジタル）*[1]を使用したワイヤレスステレオヘッドホンシステムです。

- 外来ノイズなどの影響を受けにくく、CD音質と同等のデジタル無線伝送を利用した、ワイヤレスヘッドホン採用（非圧縮伝送）
- 無線伝送方式採用のため、障害物を気にすることなく屋内での使用が可能（到達距離最大約30 m*[2]）
- ヘッドホンをトランスミッターにのせるだけの簡単充電方式
- ヘッドバンド調節不要のフリーアジャスト機構を採用
- 専用ヘッドホン（MDR-RF5000・別売）を増やせば、多人数でも同時に楽しめます
- 光ケーブルもしくは接続ケーブル1本だけで簡単接続

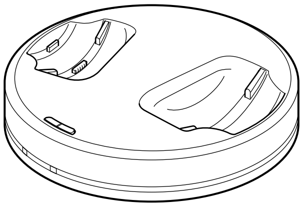
*[1] "SYNIC Intelligent Wireless" とはSyncomm Technology Corp.の非圧縮デジタル無線伝送技術の商標です。オーディオ信号を、少ない遅延かつ原音に近い品質で無線伝送する技術です。

*[2] 到達距離は目安です。周囲環境により到達距離が変わる場合があります。

本体／付属品を確かめる

本機をお使いになる前にすべてそろっているか確かめてください。

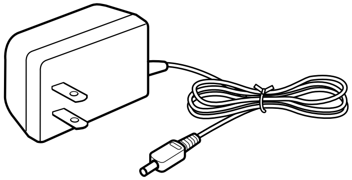
①トランスミッター TMR-RF5000（1台）



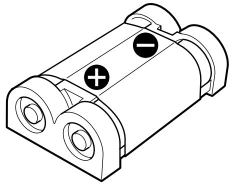
②ヘッドホン MDR-RF5000（1台）



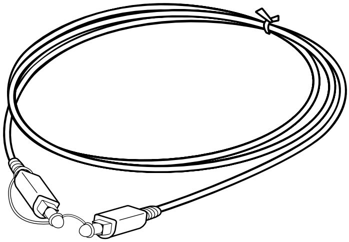
③ACパワーアダプター（1個）



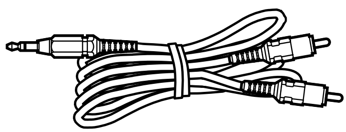
④専用充電式ニッケル水素電池 BP-HP2000（1本）



⑤光デジタル接続ケーブル（光角型プラグ↔光角型プラグ、1本）

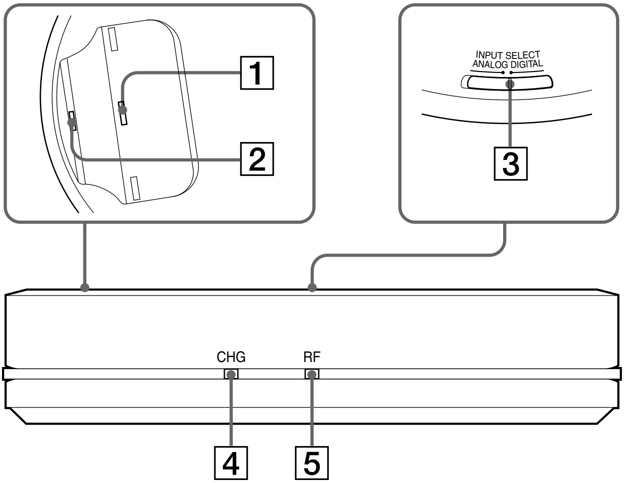


⑥接続コード（ステレオミニプラグ↔ピンプラグ×2、1本）



各部のなまえと働き

トランスミッター前面



1 **充電端子**

2 **充電レバー**

3 **INPUT（インプット） SELECT（セレクト）（入力切り換え）スイッチ**

入力（ANALOG/DIGITAL）の切り換えに使います。

4 **CHG（充電）ランプ**

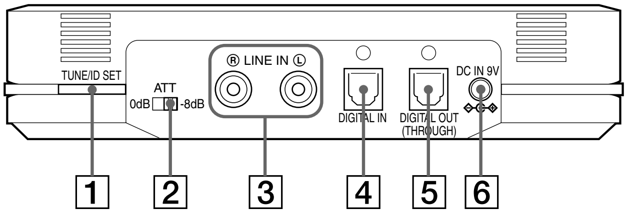
充電中は赤く点灯します。

5 **RFランプ**

電波送信が始まると青く点灯します。

（次のページへつづく）

トランスミッター後面



1 TUNE/ID SET(チューン アイディー セット)ボタン
(詳しくは21、23ページ)
電波の状態が悪くなったときや、ヘッドホンを増設したときに使用します。

2 ATT(アッテネーター)スイッチ
アナログ入力で音声が小さい場合は「0dB」に切り換えます。通常は「–8dB」にして使います。

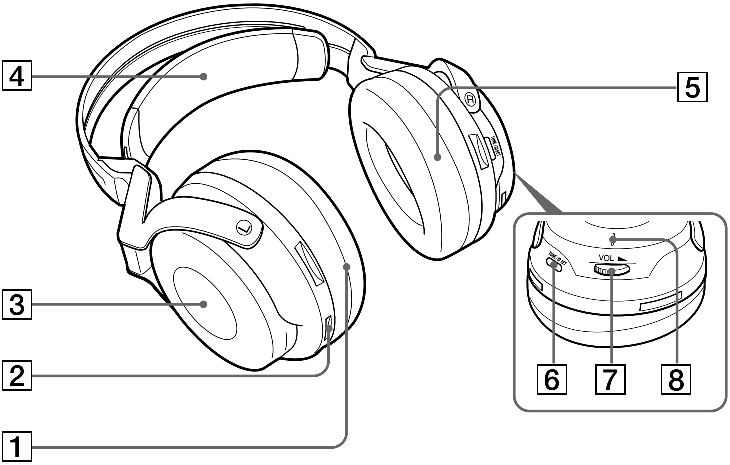
3 LINE IN(ライン イン)(ライン入力)端子
(詳しくは17ページ)
ビデオデッキやテレビなど、別売りのAV機器の音声出力端子につなぎます。

4 DIGITAL IN(デジタル イン)(デジタルソース入力)端子
(詳しくは16ページ)
DVD機器や地上/BSデジタルチューナーなど、別売りのデジタル機器につなぎます。

5 DIGITAL OUT(デジタル アウト)(デジタルソース出力)端子
(詳しくは16ページ)
DIGITAL IN端子に入力された信号がそのまま出力されます。AVアンプなどに同じ信号を分岐させるときに使用します。

6 DC IN 9V(ディーシーイン)端子
付属のACパワーアダプターをつなぎます。(必ず付属のACパワーアダプターをお使いください。プラグの極性など異なる製品を使うと、故障の原因となり危険です。)

ヘッドホン



1 イヤーパッド(左)

2 充電端子

3 電池ケース
付属の充電式電池および別売りの単3形アルカリ乾電池専用です。

4 フリーアジャストバンド
頭にかけると自動的に電源が入ります。

5 イヤーパッド(右)

6 TUNE/ID SET（チューン アイディー セット）ボタン
（詳しくは21、23ページ）
電波の状態が悪くなったときや、ヘッドホンを増設したときに使用します。

7 VOL（ボリューム）(音量)つまみ
音量を調節します。

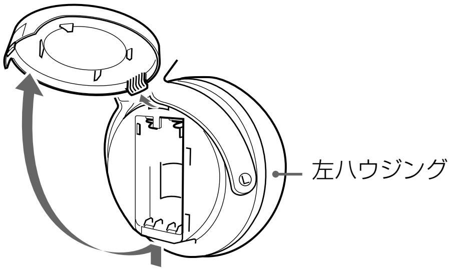
8 電源ランプ
フリーアジャストバンドを引き上げると、電池の残量がある場合青く点灯します。

付属の専用充電式ニッケル水素電池を充電する

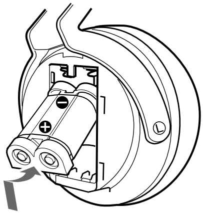
お買い上げ時の充電式電池は、まず充電してからお使いください。
ヘッドホンをトランスミッターにのせて充電します。

付属の専用充電式ニッケル水素電池を入れる

1 左ハウジング部にある電池のふたを開ける。
電池のふたは、はずれます。

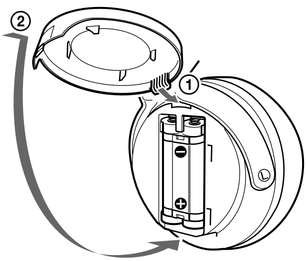


2 付属の専用充電式ニッケル水素電池を入れる。
付属の充電式電池以外は充電しないでください。



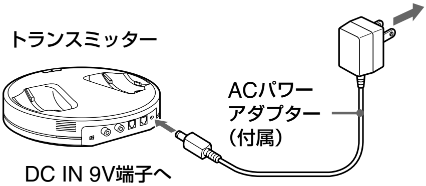
ご注意
電池ケースの⊖側には充電池を固定するためのツメがあります。充電池を入れるときは、⊖を先に入れてください。

3 電池のふたを閉じる。



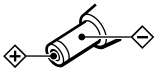
充電する

1　トランスミッターに電源をつなぐ。



ご注意

- 必ず付属のACパワーアダプター（極性統一形プラグ・JEITA規格）をお使いください。プラグの極性など異なる製品を使うと、故障の原因になります。



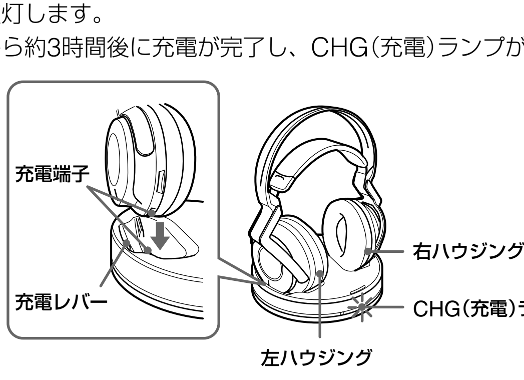
極性統一形プラグ

- 電圧やプラグ極性が同じACパワーアダプターでも、電流容量その他の要因で故障の原因になります。必ず付属のACパワーアダプターをご使用ください。
- ACパワーアダプターは容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いてください。
- ACパワーアダプターを本棚や組み込み式キャビネットなどの狭い場所に設置しないでください。
- 火災や感電の危険をさけるために、ACパワーアダプターを水のかかる場所や湿気のある場所では使用しないでください。また、ACパワーアダプターの上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。

2　CHG（充電）ランプが点灯するようにヘッドホンをトランスミッターの上にのせる。

ヘッドホンをトランスミッターの上にのせるときは、左右ハウジング部が平行になるようにして、トランスミッターへ垂直にのせてください。充電レバーがヘッドホンに押されて充電端子が上がります。ヘッドホンに充電端子が接続されるとCHG（充電）ランプが点灯します。

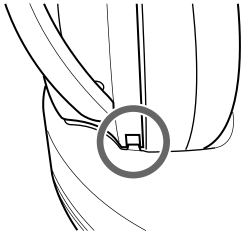
充電開始から約3時間後に充電が完了し、CHG（充電）ランプが消灯します。



（次のページへつづく）

CHG(充電)ランプが点灯しない場合は、次のことを確認してください。

- 電池のふたを必ず閉じてください。電池のふたがないと充電できません。
- ヘッドホンをトランスミッターにのせるときは、ヘッドホンの左右が逆になっていないことを確認してください。
- トランスミッターとヘッドホンの充電端子が正しく接触していない場合があります。
  右図のように、左のハウジングの凹部とトランスミッターの受け皿にある凸部が合うようにのせてください。



- 電池ケースの中に付属の充電式ニッケル水素電池が入っているか確認してください。乾電池は充電できません。
- 充電池に異常がある、または、充電池の⊕⊖が逆に入っている場合は、CHG(充電)ランプが点滅します。

ヘッドホンをお使いになったあと再充電するには

ヘッドホンをトランスミッターに再度のせてください。CHG(充電)ランプが点灯した後、RFランプが消灯し、充電が始まります。

本機はフル充電検出により充電(約3時間)を完了しますので、ヘッドホンをトランスミッターにのせたままでも、充電のしすぎによって故障することはありません。

ご注意

- 充電中はトランスミッターの電源が自動的にOFFになります。
- 本機は、安全のため付属の充電式電池BP-HP2000のみ充電できるようになっています。他の充電式電池を使っても充電できませんのでご注意ください。
- 乾電池を入れても充電されません。
- 付属の充電式電池BP-HP2000を他の機器に使用しないでください。この電池は本機専用です。
- 充電は0°C～40°Cの環境で行なってください。フル充電されない場合があります。
- トランスミッターの充電端子に触れないでください。充電端子の汚れにより、充電ができなくなる場合があります。
- ヘッドホンとトランスミッターの充電端子にゴミがついていると充電が正常に行なわれない場合がありますので、ときどき綿棒などでゴミを軽くふき取ってください。

充電時間の目安と持続時間

充電時間	持続時間*1
約3時間*2	約7時間*3

*1 1 kHz,1 mW+1 mW出力時

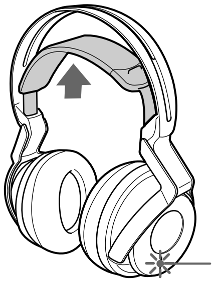
*2 充電されていない状態からフル充電するのにかかる時間

*3 周囲の温度や使用状態により、上記の持続時間と異なる場合があります。

電池を確認する

フリーアジャストバンドを引き、右ハウジング内の電源ランプが青く点灯すれば使用できます。

電源ランプが点灯しないときは、充電するか、新しいアルカリ乾電池でお使いください。



ご注意

付属の充電式ニッケル水素電池を充分に充電しても、使える時間が通常の半分くらいになったときは、新しい充電式電池と取り換えてください。この充電式電池BP-HP2000は市販されていませんので、お買い上げ店または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口へお問い合わせの上、お取り寄せください。

アルカリ乾電池(別売り)を使う

本機は別売りの単3形アルカリ乾電池でもお使いになれます。「付属の専用充電式ニッケル水素電池を入れる」(12ページ)と同じ方法で乾電池を本機に入れます。

乾電池を入れた状態では充電機能はお使いになれません。

乾電池の持続時間

乾電池の種類	持続時間*[1]
ソニーアルカリ乾電池 LR6(SG)	約5時間*[2]

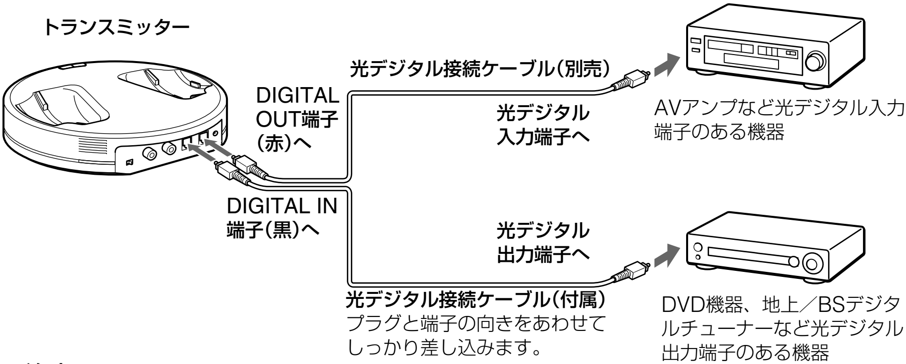
*[1] 1 kHz,1 mW+1 mW出力時

*[2] 周囲の温度や使用状態により、上記の持続時間と異なる場合があります。

ヘッドホンシステムをつなぐ

トランスミッターとデジタル機器をつなぐ

付属の光デジタル接続ケーブルを使って、CD／DVD機器や地上／BSデジタルチューナーなどの光デジタル出力端子と、トランスミッターのDIGITAL IN端子(黒)をつないでください。
接続されている機器側で光デジタル出力の設定をPCM出力に変更する必要があります。詳しくは、接続機器の取扱説明書をご覧ください。
トランスミッターからAVアンプなどへ接続する場合は、光デジタル接続ケーブル(別売)を使って、DIGITAL OUT端子(赤)と接続先の光デジタル入力端子をつないでください。



ご注意

- DIGITAL IN端子に、PCM信号以外の信号を入力しないでください。接続されている機器の光デジタル出力の設定を必ずPCMにしてください。DVD機器などからマルチチャンネル信号を入力した場合、音声は再生されません。ただし、MPEG-2 AAC、DTSフォーマットのCD信号が本機に入力されると、非常に大きなノイズが出力される場合があります。
- 光デジタル接続ケーブルは非常に精密に作られています。このため、外部からの力や衝撃に対して弱くなっておりますので、プラグを抜き差しするときは丁寧にお取り扱いください。
- 本機のデジタル入力は96 kHzのサンプリング周波数には対応していません。DVD機器側のデジタル出力に関する設定を48 kHzにしてお使いください。96 kHzのデジタル信号を入力すると、ノイズが出ることがありますのでご注意ください。

接続コード(別売り)

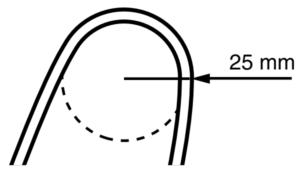
ポータブルDVDプレーヤーやポータブルCDプレーヤーなどの光ミニデジタル出力端子からDIGITAL IN端子へつなぐときは、接続コード POC-5AB(光ミニプラグ ↔ 光角型プラグ)などをお使いください。

光デジタルセレクター(別売り)

複数のデジタル機器を接続したいときは、光デジタルセレクター SB-RX100P(入力4系統、出力3系統)をお使いください。

光デジタル接続ケーブルについてのご注意
- 光デジタル接続ケーブルには落下物などによる衝撃を与えないでください。
- 光デジタル接続ケーブルの抜き差しは、プラグを持って、丁寧に行なってください。
- 光デジタル接続ケーブルの先端が汚れると性能が低下しますので、汚さないようにしてください。
- 保管の際は、プラグ先端にキャップを付けて、光デジタル接続ケーブルを折り曲げすぎないようにしてください。

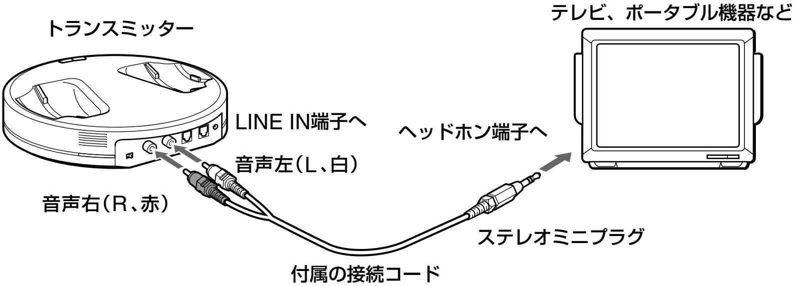
光デジタル接続ケーブルの最小曲げ半径は25 mmです。



トランスミッターとアナログ機器をつなぐ

付属の接続コード

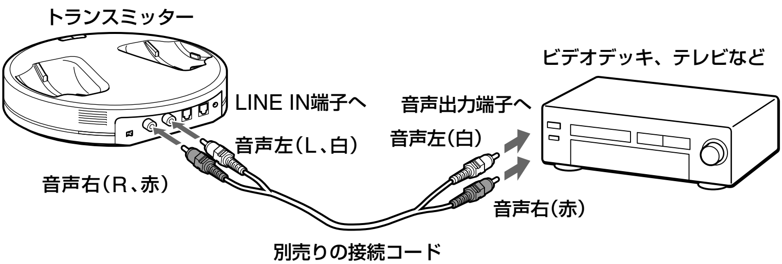
テレビやポータブル機器にあるヘッドホン端子などのステレオミニジャックからLINE IN端子へつなぐときは、付属の接続コード(ステレオミニプラグ ⟷ ピンプラグ×2)をお使いください。



この場合、プレーヤー側のボリュームを中ぐらいにしてお使いください。プレーヤー側のボリュームが低く設定されていると、ノイズが発生することがあります。
テレビのヘッドホン端子に接続した場合、テレビのスピーカからの音声は聞こえなくなる場合があります。

別売りの接続コード

ビデオデッキやテレビなどの音声出力端子からLINE IN端子(L/R)へつなぐときは、接続コード RK-C310(ピンプラグ×2 ⟷ ピンプラグ×2)などをお使いください。

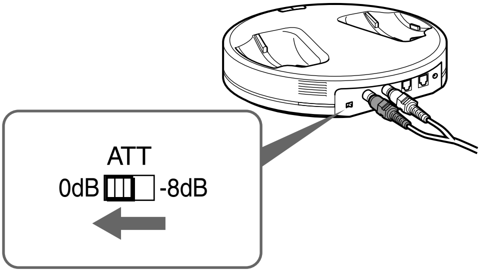


その他の接続コード(別売り)については、「主な仕様: 推奨アクセサリー」(30ページ)をご覧ください。

(次のページへつづく)

ATTスイッチについて

アナログ入力で音声が小さいときは、トランスミッター後面にあるATT(アッテネーター)スイッチを「0dB」に切り換えてお使いください。



位置	視聴ソース
0dB	テレビやポータブル機器など、出力レベルの低いもの
–8dB	その他の機器(出荷時の設定)

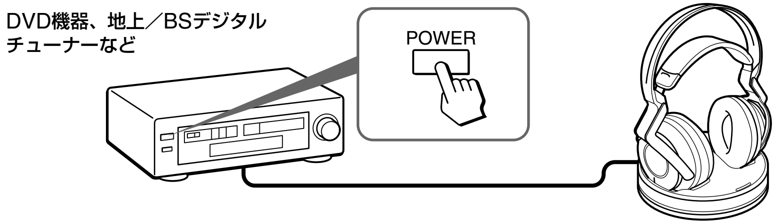
ご注意

- ATTスイッチは、必ず音量を下げてから切り換えてください。
- アナログ入力された音声がひずむ(同時にノイズが発生する場合もあります)ときは、ATTスイッチを「–8dB」に切り換えてください。

つないだ機器の音声を聞く

操作に入る前に、必ず「ヘッドホンシステムをつなぐ」(16〜18ページ)をご覧の上、正しい接続を行なってください。

1 トランスミッターをつないだ機器の電源を入れる。



2 トランスミッターからヘッドホンをはずす。

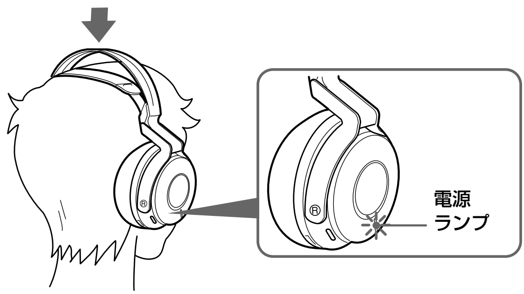
トランスミッターの電源が自動的に入り、RFランプが約5秒間点滅します。点滅をしている間に、ご使用になる環境に応じて送信に最適な周波数を自動的に検出します。トランスミッターからの送信が始まると、RFランプが点灯に変わります。

伝送システムについて

本機は2.4 GHz帯の周波数を使用した独自の伝送システムの採用により、非圧縮音声をワイヤレスで楽しんで頂けます。

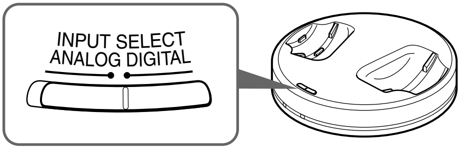
3 ヘッドホンをかける。

右ハウジング内の電源ランプが青く点灯し、自動的に電源が入ります。
右ハウジング部を右耳に、左ハウジング部を左耳に合わせ、オートパワーオン／オフ機能が正確に働くように、頭の上から垂直にかけてください。
ヘッドホンをかけてから、音声が聞こえるまで約3秒かかります。



(次のページへつづく)

4 INPUT SELECT(入力切り換え)スイッチで、音声を聞く機器を選ぶ。



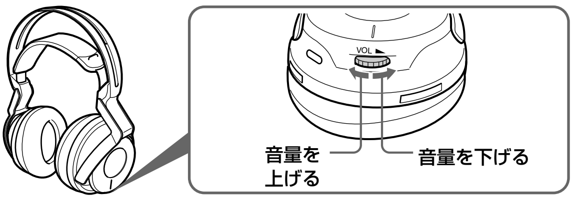
スイッチの位置	聞きたい音源
DIGITAL	DIGITAL IN端子につないだ機器の音声
ANALOG	LINE IN端子につないだ機器の音声

ご注意

二重音声(MAIN/SUB)の音源を視聴するときは、LINE IN端子に接続して、プレーヤーやテレビなどの方で聞きたい音声を選んでください。

5 手順4で選んだ機器の再生を始める。

6 音量を調節する。

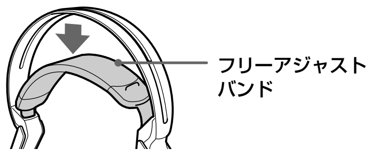


ご注意

- 映画の場合、静かなシーンで音量を上げすぎて、急な爆発シーンなどで耳を痛めないようご注意ください。
- ヘッドホンをはずす前にトランスミッターからACパワーアダプターをはずすと、雑音が入ることがあります。

ヘッドホンをはずすと自動的に電源が切れます — オートパワーオン／オフ機能

お使いにならないときは、フリーアジャストバンドが引き上げられた状態にならないようにご注意ください。オートパワーオン機能が誤って働いてしまい、電池が消耗します。

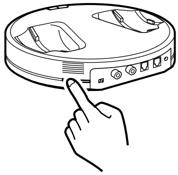


ヘッドホンからビープ音が聞こえるときは

電波の届く範囲から離れたり、2.4 GHz帯の周波数を使用する無線機器や電子レンジなどの影響を受けて、ヘッドホンの受信状態が悪くなると「ピッピッピッ・・・」というビープ音が聞こえます。トランスミッターに近づいてもビープ音がとまらない場合は、伝送に最適な周波数を次の手順で再検出してください。

1 トランスミッターのTUNE/ID SETボタンを1回短押しする。

RFランプが点滅し、トランスミッターが最適な周波数を自動的に検出します。検出が完了するとRFランプが点滅から点灯に変わり、送信が始まります。



2 ヘッドホンのTUNE/ID SETボタンを1回短押しする。

トランスミッターから送信されている周波数を自動的に検出します。受信が始まると、ビープ音が解除されます。



（次のページへつづく）

電波の届く範囲について

トランスミッターから電波が届く範囲は、最大で約30 mです。
トランスミッターからヘッドホンをはずすと、自動的に最適な周波数を検出しますが、ご使用中に電波の届く範囲から離れたり、電波の状態が悪くなると音がとぎれる場合があります。トランスミッターに近づくか、トランスミッターとヘッドホンのTUNE/ID SETボタンを押して最適な周波数を検出してください。検出方法は「ヘッドホンからビープ音が聞えるときは」(21ページ)の手順を参照してください。

ご注意

- このシステムは2.4 GHz帯の周波数を使用しているため、障害物で電波がさえぎられた場合は音がとぎれることがあります。これらの現象は電波の特性によるもので、故障ではありません。
- トランスミッターの位置やお使いになる場所の状況により聞こえかたが異なります。なるべく聞こえやすい位置でお使いになることをおすすめします。
- 他の2.4 GHz帯の周波数を使用する無線機器や電子レンジなどを併用すると音声がとぎれることがあります。

約5分間音声信号が入力されないと

トランスミッターの電波の送信が自動的に停止し、再び音声信号が入力されると自動的に電波が送信されます。また、非常に小さい音が約5分間続いたときも、電波の送信が停止することがあります。この場合はつないだ機器の音量を上げ、ヘッドホンの音量を下げてお使いください。LINE IN端子につないだ機器からノイズ信号が出力されていると、電波の送信が停止しない場合があります。

ヒント

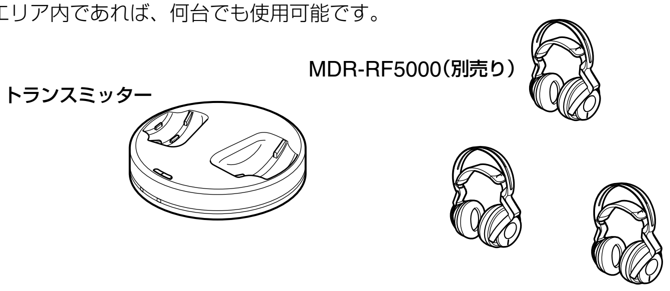
トランスミッターに約 5 分間音声信号が入力されずに電波の送信が停止した状態から、再度トランスミッターに音声信号が入力されると電波を再送信します。このときRFランプが点滅し、送信に最適な周波数を検出します。RFランプが点灯後、送信周波数が変わり音声が聞こえない場合がありますので、ヘッドホンのTUNE/ID SETボタンを1回短押しして、受信する周波数を合わせてください。

ご注意

ヘッドホンは、電波が届く範囲(前記「電波の届く範囲について」)でお使いください。

ヘッドホンを増設して楽しむ

本システムでは、別売りの専用ワイヤレスヘッドホン(MDR-RF5000)を増設することにより、複数の人が同時にワイヤレスで楽しむことができます。
増設したヘッドホンは、本システムのトランスミッターで充電を行ないます。
*受信エリア内であれば、何台でも使用可能です。



ご注意

- 充電中は、トランスミッターの電源が自動的にOFFになります。他のヘッドホンを使用するときは、本システムのヘッドホンをトランスミッターからはずしてください。
- 本機は、独自の2.4 GHzデジタル伝送方式を採用しているため、ほかのワイヤレスヘッドホンは使用できません。

ヘッドホンを増設するときは

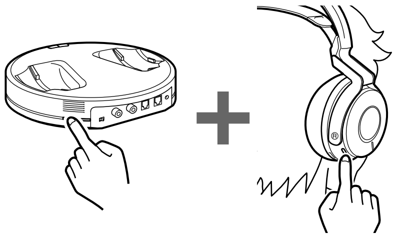
トランスミッターには固有のIDが設定されています。別売りの専用ワイヤレスヘッドホン(MDR-RF5000)を増設する場合は、トランスミッターに設定されているIDをヘッドホンに登録しなければ使用することができませんので、必ず登録作業を行ってください。

1 **トランスミッターからヘッドホンをはずす。**
トランスミッターの電源が入ります。

2 **ヘッドホンをかける。**
ヘッドホンの電源が入ります。

ご注意
増設するヘッドホンに付属の充電池は登録作業の前に充電するか、別売の単3形アルカリ乾電池を使用してください。

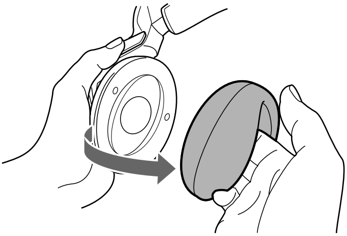
3 **トランスミッターとヘッドホンのTUNE/ID SETボタンを同時に約3秒以上押し続ける。**
ヘッドホンから「ピッピッピッ・・・」とビープ音が聞こえ、ヘッドホンにIDの登録が開始されます。ビープ音が「ピー」と変化するまでTUNE/ID SETボタンを押し続けてください。ビープ音が「ピー」と変化したらヘッドホンにIDが登録され、ヘッドホンを使用することができるようになります。



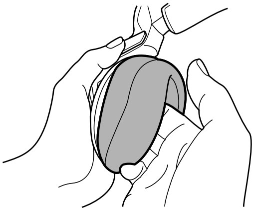
イヤーパッドを交換する

イヤーパッドは消耗品です。汚れたり破損した場合は、下図を参照してイヤーパッドを交換してください。このイヤーパッドは市販されていませんので、お買い上げ店または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口へお問い合わせの上、お取り寄せください。

1 古くなったイヤーパッドをはずす。



2 イヤーパッドをハウジングの外周に合わせるようにはめ込む。



故障かな？と思ったら

修理にお出しになる前に、もう一度点検してください。それでも正確に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

症状	原因と対応のしかた
音が出ない	➡ トランスミッターとAV機器の接続を確認する。 ➡ デジタル入力を選択している場合は、誤って光出力端子に信号が入力されていないか確認する。 ➡ デジタル入力を選択している場合は、接続機器の光デジタル出力の設定が「OFF」や「切」になっていないか確認する。 ➡ 光出力で接続されている機器のデジタル出力設定がPCM出力になっているか確認する。（PCM信号以外の信号が入力されると非常に大きなノイズが出力される場合があります。） ➡ トランスミッターにつないだAV機器の電源を入れ、再生を始める。 ➡ トランスミッターのINPUT SELECTスイッチの設定が、音を聞きたい機器を正しく選んでいるか確認する。 ➡ トランスミッターとAV機器のヘッドホン端子をつないだときは、つないだ機器の音量を上げる。 ➡ ヘッドホンを頭の上から垂直にかけ直す。 ➡ ヘッドホンの音量を上げる。 ➡ ヘッドホンの電源ランプが消灯している。 • 充電式電池が消耗しているので充電をする。またはアルカリ乾電池を新しいものと交換する。それでも電源ランプが消灯したままの場合は、ソニーサービス窓口にお持ちください。 ➡ DVD機器（ゲーム機を含む）と本機をアナログで接続している状態でDTS音声で収録されたDVDを再生している。 • デジタルで接続してください。（DVD機器からアナログ音声が出力されない場合があります。） ➡ 増設したヘッドホンにお使いになるトランスミッターのIDが設定されていない。 ➡ 増設したヘッドホンを充電している。 • 増設したヘッドホンをトランスミッターからはずす。
音がひずむ、とぎれとぎれになる（同時にノイズが出る場合もある）	➡ 充電式電池が消耗しているので充電をする。またはアルカリ乾電池を新しいものと交換する。それでも電源ランプが消灯したままの場合は、ソニーサービス窓口にお持ちください。 ➡ トランスミッターとヘッドホンの周辺に2.4 GHz帯の周波数を使用する無線や電子レンジなどの機器がないか確認する。 ➡ トランスミッターの位置を変える。 ➡ アナログ入力を選択している場合は、トランスミッターのATTスイッチを「–8dB」に切り換える。 ➡ トランスミッターとAV機器のヘッドホン端子をつないだときは、つないだ機器の音量を下げる。

（次のページへつづく）

症状	原因と対応のしかた
音が小さい	➡ アナログ入力を選択している場合は、トランスミッターのATTスイッチを「0dB」に切り換える。 ➡ トランスミッターとAV機器のヘッドホン端子をつないだときは、つないだ機器の音量を上げる。 ➡ ヘッドホンの音量を上げる。
雑音が多い	➡ トランスミッターとヘッドホンの周辺に2.4 GHz帯の周波数を使用する無線や電子レンジなどの機器がないか確認する。 ➡ トランスミッターとAV機器のヘッドホン端子をつないだときは、つないだ機器の音量を上げる。 ➡ 充電式電池が消耗しているので充電をする。またはアルカリ乾電池を新しいものと交換する。それでも電源ランプが消灯したままの場合は、ソニーサービス窓口にお持ちください。
音がきれる（アナログ入力を選択している場合）	➡ 約5分音声信号が入力されていないとトランスミッターが判断し送信が停止した。 • トランスミッターのATTスイッチを「0dB」に切り換える。 • トランスミッターとAV機器のヘッドホン端子をつないだときは、つないだ機器の音量をあげる。
充電できない	➡ CHG（充電）ランプが点灯しているか確認する。ヘッドホンがトランスミッターの正しい位置にのせられているか確認する。 ➡ 乾電池が入っている。 • 付属の専用充電式ニッケル水素電池を入れる。 ➡ 付属以外の充電式ニッケル水素電池が入っている。 • 付属の専用充電式ニッケル水素電池を入れる。 ➡ 充電端子が汚れている • ヘッドホンとトランスミッターの充電端子の汚れを綿棒などで軽くふき取ってください。
充電ランプが点滅する	➡ 充電池の⊕⊖が逆に入っている。 • 充電池を正しく入れる。 ➡ 充電池に劣化などの異常がある。 • 新しい充電式電池と取り換えてください。この充電式電池BP-HP2000は市販されていませんので、お買い上げ店または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口へお問い合わせの上、お取り寄せください。
電波の出力が停止しない（トランスミッターのINPUT SELECTスイッチが「ANALOG」のとき）	➡ つないだアナログ機器からノイズ信号が入っている。 • アナログ機器とつないでいるケーブルを本機からはずすか、トランスミッターのINPUT SELECTスイッチを「DIGITAL」に切り換え、DIGITAL IN端子につながれている機器の出力を停止する。
光出力端子から信号が出力されない	➡ トランスミッターに電源がつながれていない。 • トランスミッターに電源をつないでください。 ➡ 光入力端子につながれたデジタル機器が再生されていない。 • つないだ機器を再生してください。
デジタル入力時、二重音声の選択ができない。（MAIN、SUBの音声が同時に聞こえる）	➡ LINE IN端子にアナログ音声出力をつないで、つないだ機器の方で聞きたい音を選んでください。

症状	原因と対応のしかた
警告音が鳴る 「ピッピッピッ…」	➡ ヘッドホンがトランスミッターからの電波を受信できない。 • 電波の届く範囲に移動する。 • トランスミッターとACパワーアダプタ、電源コンセントの接続を確認する。 • トランスミッターとヘッドホンの周辺に2.4 GHz帯の周波数を使用する無線や電子レンジなどの機器がないか確認する。 • トランスミッターの位置を変える。 ➡ トランスミッターに約5分間、音声が入力されず電波が出力されていない。 • トランスミッターに音声を入力して、ヘッドホンのTUNE/ID SETボタンを1回短押しする。 ➡ 増設したヘッドホンを充電している。 • 増設したヘッドホンをトランスミッターからはずす。

使用上のご注意

取り扱いについて

- トランスミッター、ヘッドホンを落としたりぶつけたりなど強いショックを与えないでください。故障の原因となります。
- 各機器を分解したり、開けたりしないでください。

電源と設置について

- 長い間使わないときは、ACパワーアダプターをコンセントから抜いてください。コンセントから抜くときは、コードを引っぱらずに必ずACパワーアダプター本体をつかんで抜いてください。
- 次のような場所には置かないでください。
  - 直射日光があたる場所や暖房器具の近くなど温度が非常に高い所。
  - ほこりの多い所。
  - ぐらついた台の上や傾いた所。
  - 振動の多い所。
  - 風呂場など、湿気の多い所。

ヘッドホンについて

まわりの人のことを考えて

ヘッドホンは、音量を上げすぎると音が外にもれます。音量を上げすぎて、まわりの人の迷惑にならないように気をつけましょう。
雑音の多いところでは音量を上げてしまいがちですが、ヘッドホンで聞くときはいつも、呼びかけられて返事ができるくらいの音量を目安にしてください。

機器認定について

本機は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、認証を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。
ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられることがあります。

- 本機を分解/改造すること
- 本機に貼ってある証明ラベルをはがすこと

周波数について

本機は2.4 GHz帯の2.400 GHzから2.4835 GHzまで使用できますが、他の無線機器も同じ周波数を使っていることがあります。他の無線機器との電波干渉を防止するため、下記事項に注意してご使用ください。

本機の使用上の注意事項

本機の使用周波数は2.4 GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. 本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. 不明な点その他お困りのことが起きたときは、ソニーの相談窓口までお問い合わせください。ソニーの相談窓口については、本取扱説明書の裏表紙をご覧ください。

2.4DS4

この無線機器は2.4 GHz帯を使用します。変調方式としてDS-SS変調方式を採用し、与干渉距離は40 mです。

お手入れのしかた

機器の外装の汚れは、柔らかい布でから拭きしてください。汚れがひどいときは、うすい中性洗剤溶液でしめらせた布で拭いてください。シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面の仕上げをいためるので使わないでください。

異常や不具合が起きたら

- 万一異常や不具合が起きたり、異物が中に入ったときは、すぐに電源を切り、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。
- お買い上げ店またはソニーサービス窓口にお持ちになる際は、必ずヘッドホンとトランスミッターを一緒にお持ちください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際にお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときは

お買い上げ店または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではワイヤレスステレオヘッドホンシステムの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後6年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

主な仕様

トランスミッター　TMR-RF5000

変調方式	DSSS
搬送波周波数	2.412～2.472 GHz
到達距離	最長約30 m
伝送帯域	12～22,000 Hz（デジタル入力時、サンプリング周波数48 kHz時）
ひずみ率	1%以下（1 kHz）
音声入力	光デジタル入力（角型）×1系統 アナログ入力（ピンジャック、右／左）×1系統
音声出力	光デジタル出力（角形）×1
電源	DC 9 V（付属のACパワーアダプターを使用）
最大外形寸法	約182×38×182 mm（幅／高さ／奥行き）
質量	約320 g

ヘッドホン　MDR-RF5000

再生周波数帯域	12～22,000 Hz
電源	付属の専用充電式ニッケル水素電池または別売りの単3形アルカリ乾電池
質量	約360 g（付属の専用充電式ニッケル水素電池含む）

（次のページへつづく）

付属品

ACパワーアダプター（9 V）（1）
専用充電式ニッケル水素電池
BP-HP2000（2000 mAh min.）
（1）
光デジタル接続ケーブル（光角型プラグ ←→ 光角型プラグ、1.5 m）（1）
接続コード（ステレオミニプラグ ←→ ピンプラグ×2、1.0 m）（1）
取扱説明書（本書）（1）
ソニーご相談窓口のご案内（1）
保証書（1）

推奨アクセサリー

接続コード　RK-C310（1.0 m）、
RK-C315（1.5 m）、
RK-C320（2.0 m）、
RK-C330（3.0 m）（ピンプラグ×2 ←→ ピンプラグ×2）

光デジタルセレクター
SB-RX100P

光デジタル接続ケーブル
POC-5A（0.5 m）、
POC-10A（1.0 m）、
POC-15A（1.5 m）、
POC-20A（2.0 m）、
POC-30A（3.0 m）、
POC-5DSA（0.5 m）、
POC-10DSA（1.0 m）、
POC-20DSA（2.0 m）、
POC-30DSA（3.0 m）（光角型プラグ ←→ 光角型プラグ）、
POC-5AB（0.5 m）、
POC-10AB（1.0 m）、
POC-15AB（1.5 m）、
POC-20AB（2.0 m）、
POC-30AB（3.0 m）（光角型プラグ ←→ 光ミニプラグ）

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などは
ホームページをご活用ください。

http://www.sony.co.jp/support

使い方相談窓口

フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・・・・ **0120-333-020**
携帯電話・PHS・一部のIP電話・・・ **0466-31-2511**

修理相談窓口

フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・・・・ **0120-222-330**
携帯電話・PHS・一部のIP電話・・・ **0466-31-2531**

※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

FAX（共通） 0120-333-389

左記番号へ接続後、
最初のガイダンスが
流れている間に
「309」+「#」
を押してください。
直接、担当窓口へ
おつなぎします。

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

Printed in Malaysia

* 2 6 5 0 2 4 9 0 6 * (1)